


市内活動グループ訪問記

ボヤマシマ

「よわいサークル」絆  
講座から発展して年目を迎える  
楽しく踊り、絆を深めて



10月3日(土)午後2時からけやき体育館2階教室まで「お邪魔して、よわいサークル」絆」の皆さんの活動ぶりを取材させて頂きました。「絆」さんは、毎年、ほかほかあられあいフェスタにも参加し、元気の踊りを披露してくれている。代表の佐藤久美子さん、まずお話を伺う。

◆この活動を始めたきっかけは？

「2012年に相模原に越して来たのですが知り合いがいなく、障がいのある子どもがいるので情報を得たいと、けやき体育館で「よわい」講座を受講。修了後に指導者の十六夜さん(いざよい)から、桜まつりに出ようかと誘われ、保護者にも呼びかけて参加しました。それがきっかけで、残ったメンバーでサークルを立ち上げたのです。それからずっと続けて8年になります」

◆このように活動されているのですか？

「毎月2回、土曜日が日曜日の午前または午後には踊りの練習をしています。すでに持ち歌(踊れる曲)は7、8曲ありますよ。会員数は19人(保護者の方を含め)で、最初からの人が11人、年齢は中学1年生から70代まで幅広く、踊りの練習



代表の佐藤さん(右)と踊りの指導&振り付け担当の坂場さん



エネルギッシュな踊りを披露してくれる絆のメンバー

の他に、年1回のバス旅行や忘年会などもあります。また、市内のお祭りに参加したりデイサービスや施設などからも依頼があり踊りを披露しています」

◆長く続いている理由は？

「ストレス発散ができて友達もでき、何より親の愛情に包まれているからでしょう。このように親も参加し支え続けているサークルは少ないと思います」  
さて、得意のそうらん踊りを披露してもらいましよう。



背中の「絆」の漢字はみな同じだけれど、ピンク、黄緑、黄、紫、黒など各自好きな色のTシャツを着ていっせいに踊り始めた。思いのたけをぶつけるようにエネルギー全開で、ヨイショ ハイハイ ドッコイショ ハイハイと絶えず掛け声をかけたり、鳴子を振ったり、飛んだり跳ねたり、回ったりしてそれは楽しそうに踊り続け、最後のポーズもピタリッと決まっていた。恰好いいこと！  
よすがです!!

11月の記念日は？

小倉義男

11月17日、将棋の日です。

江戸時代、将棋好きであった徳川吉宗が毎年旧暦11月17日を「お城将棋の日」とし、御城将棋をさせていたことから、日本将棋連盟が1975年に記念日として制定。

最近、将棋界に旋風を起こしている藤井二冠。まだ18歳、高校生にもかかわらず、次々と記録を更新していますね。今後が、ますます楽しみです。 (^\_^) 小倉画



今流行りの「パプリカ」の曲では「パプリカ先生」と呼ばれる川名(かわな)さんが先頭でお手本を示していた。メンバーの鵜飼(うかい)さんは「踊ると元気になる感じがいい。他にも楽しみにしているバス旅行、今年はやれるのかな」と、心配していた。部屋の外で待っていた鵜飼さんのお母さんは「あまり入り込んで息子の楽しみを阻害しないように気を付けていますよ」と控えめに心構えを吐露(つひく)された。

佐藤さんに今後のことを伺う、「これだけのが出来る皆さんには、まだ可能性が沢山秘められていると思うんですね。将来は皆さんの個性を生かし、歌も生かし、よわいこの枠を超えて色々なことに挑戦し、さらに幅を広げて、外国の人たちとも交流してみたいと考えています」

皆さんのエネルギッシュな踊りと明るい表情から、高齢(80歳)の取材者もすっかき気分が若返り元気がうらやまけやき体育館を後にした。(山崎)